令和5年度
長野救命医療専門学校　学校関係者評価　自己点検報告書

教職員自己点検結果

1 教育目標

医療等に携わる者として、「確かな専門性」と「豊かな人間性」を兼ね備えた学生を育成する。
そのため次の視点から専門教育と人間教育の統合を図る。
①自己研鑽に励む優れた教職員が、充実した施設・設備を駆使して、学生の期待に応えるための専門教育を展開する。
②学生が自ら学び 共に磨き合うことを大切にしながら、基礎基本の確実な定着と実践的態度の向上を図り、医療等のスペシャリストを養成する。
③傷病者の治療・施術や指導、心のケアを担当する医療・福祉スタッフの一員として、優しい心で真心を尽くすことが出来る学生を養成する。

2 建学の精神（校歌三心）

1 自主（医術） ～救命医療に関する知恵を修め技術を磨く
2 愛（意思） ～救命医療の業務に誇りを持ち、慈愛の心を耕す。
3 至誠（医道） ～救命医療の道における誠実な在り方を究める

3 学校運営の重点

1、個性の開発
（1）基礎基本となる学力の確かな定着を図る。
（2）主体的な学習態度を育成する。
（3）学生相互の信頼関係を深化し、切磋琢磨し合う集団を形成する。

2、特色ある教育課程の編成
（1）教育内容を精選し、その関連性と発展性を明確にする。
（2）救命医療に係る実践的な教育内容の充実を図る。
（3）「確かな専門性」とともに、「豊かな人間性」を育む展開を組織する。

3、生活指導の徹底
（1）学生を共感的に理解し、自立するよう支援する。
（2）基本的生活習慣の定着と健康安全に関する指導を徹底する。
（3）定期教育相談、並びに必要に応じた個人面談等を実施する。

4、開かれた学校
（1）地域社会との連携を図り、諸活動に積極的に参加する。
（2）学校評価、並びに学校関係者の協力を得て、学校運営の向上を期する。
（3）保護者懇談会、保護者説明会等を実施する。

5 評価項目の達成及び取り組み項目

※該当する数字に〇印、［ ］内にご意見がございましたら記入してください。

（1） 教育理念・目標

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・1（不適切）	
教育目標・育成人材像は定められているか	3.71	3.62
教育目標・建学の精神・育成人材像等が学生・保護者等に周知されているか	3.50	3.08
教育目標・建学の精神・育成人材像等は、各学科に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.29	3.31

①課題

・学生に教育理念が伝わっていない。

・保護者参観日や校内イベントなどの保護者の参加が少ない。

・以前よりも在籍学生数が増え、どう対応するか。

②今後の改善方策

・社会人、医療従事者としての心構えを随時伝え、学生に意識させる。

・校内外における学生の活動を保護者が周知できるように告知をして参加する機会を設ける。

・一人が抱えている業務を振り分けカバーする。

③特記事項(本校の特色)

・学生に親身なって指導、助言ができる。

・確かな専門性と豊かな人間性を育む。

・臨床実習における実践教育。

・小人数制で一人一人にあった指導を行える。

・少人数なので、学生一人一人見れる時間が多い。

・1年次から国試対策授業が行われている。

（2） 学校運営

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・1（不適切）	
学校運営方針は策定されているか	3.79	3.69
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.57	3.62
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.21	3.31
人事・給与に関する規程等は整備されているか	3.50	3.31
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.29	3.31
コンプライアンス体制が整備されているか	3.43	3.54
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.57	3.54
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.07	3.00

①課題

・パソコン業務の効率化を、学習する必要がある。

・情報公開は適切になされているが、教育活動の場が狭いのが課題。

・物価高を上回る所得増とまではいかなくとも、社会情勢に配慮した賃上げが実施されていない。

②今後の改善方策

・FD研修での学習を希望する。

・県内全域における教育活動に関係する情報収集をして、積極的に参加。情報公開の素材作りに取り組む。

・中小企業と同等の賃上げはなされるべきだと感じる。

③特記事項

（3） 教育目標

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・1（不適切）	
教育目標等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.57	3.46
教育目標・人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.50	3.46
学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.64	3.54
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.29	3.23
各関連分野の実習施設等の関係施設や各団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか	3.21	3.15
実践的な職業教育（実技・実習・演習・インターンシップ等が体系的に位置づけられているか	3.36	3.38
授業評価の実施・評価体制はあるか	3.21	3.15
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.64	3.54
成績評価・単位認定・進級判定・卒業判定の基準は明確になっているか	3.71	3.15
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.57	3.54
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.00	3.23
関連分野における各団体との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	2.93	2.92
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.86	3.31
職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.86	3.25

①課題

・D判定の学生に対する対応が甘く、単位を修得させるため費やす時間が多く教員の負担となる（教育者として仕方のないことだが、最近の学生は意欲が足りないことも懸念される）。

・他の施設との連携、開拓が不十分。

・外部との連携が少ないため、新しいことへの取り組みができていない。教員が研修会などに参加ができていないので、情報がフィードバックされていない。

②今後の改善方策

・実習施設の検討と開拓。

・関連企業や団体との接点を作り、多方面の救護やイベント（介護、スポーツ）に参加をする。また教員が研修会や求人説明会などに参加をして、社会のニーズや学生に必要なものを感じ取り、学生指導や授業に活用する。

③特記事項

（4） 学修成果

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・1（不適切）	
就職率の向上が図られているか	3.36	3.46
資格取得率の向上が図られているか	3.36	3.54
退学率の低減が図られているか	3.21	3.00
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.43	3.23
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.21	3.00

①課題

・入試の面接時に、学生の情報を把握しきれていない。高校生活で、採用に悪影響を及ぼすことが記載されていないため、入学後（不登校になってから）に判明することがあり、対応が難しい。

・退学者の低減。

・求人票を公開して就職活動を指導をしているが、求人の企業数が多いことや全国規模になるため就職先を選定するのが遅い。

・入学初期から資格取得の意志が薄い学生がいる。事前の下調べが必要。

②今後の改善方策

・複数回、面談を実施し学生の様子を把握する。面接時に精神的にどうか確認する必要がある。

・就職内定が遅いので早期から取り組む指導をしていく。また求人票ファイルが3年生教室に保管されているので、2階廊下などに閲覧スペースを設けて、1・2年生にも公開できるように改善する。

・入試時に聞き込み。

③特記事項

（5） 学生支援

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・1（不適切）	
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.43	3.46
学生相談に関する体制は整備されているか	3.21	3.15
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.57	3.38
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.64	3.54
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.29	3.38
学生の生活環境への支援は行われているか	3.29	3.23
保護者と適切に連携しているか	3.43	3.38
卒業生への支援体制はあるか	3.21	3.15
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.29	3.23
高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3.43	3.31

①課題

・状況を見て面談数を増やし、学生の動向を探る必要がある。

・卒業生が来校して再就職の相談があり、企業を紹介することがある。しかし退職した企業へのフォローができていない。

・保健室の環境改善。

②今後の改善方策

・卒業生に対しても在校生同様に、求人票を公開して進路・就職の支援をしていく。また学生が退職した企業に対して、教員が訪問をして学校との関係性が悪化しないようにフォローをしていく。

・収納棚を増やすか、不要なものを処分し風通しをよくする。

③特記事項

（6） 教育環境

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・ 3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・ 1（不適切）	
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.21	3.23
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.21	3.15
地球環境に配慮した指導体制（クールビズ・ウォームビズ）が整備されているか	3.36	3.31
防災に対する体制は整備されているか	3.71	3.62

①課題

・実習施設の開拓

・救護やボランティア活動が、県内に留まっていることや職域が狭いのが課題。

②今後の改善方策

・県外企業や団体との連携を深め、学生の活動の幅を広げていく。

③特記事項

（7） 学生募集

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・ 3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・ 1（不適切）	
学生募集活動は適正に行われているか	3.29	3.38
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	3.57	3.46
学納金は妥当なものか	3.64	3.62

①課題

・高校訪問のタイミングを見極める必要がある。

・学生募集に関する意見があまり出てこない。

②今後の改善方策

・色々な先生にガイダンスや高校訪問などに、積極的に取り組んでいただく。

③特記事項

・普段、あまり高校訪問を実施しない教員も参加し、学生募集の重要性を再認識する必要がある。

（8） 財務

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・ 3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・ 1（不適切）	
中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3.00	3.08
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.21	3.54
財務について会計監査が適正になされているか	3.50	3.46
財務情報公開の体制整備はできているか	3.43	3.38

①課題

・中、長期的に財政基盤が安定していない。

②今後の改善方策

・少子化が進み更に財政基盤の安定が重要になる。長期的に選ばれる学園作りに着手する必要がある。

③特記事項

特になし

（9） 法令等の遵守

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切）・ 3（ほぼ適切） 2（やや不適切）・ 1（不適切）	
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.50	3.69
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.57	3.62
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.21	3.31
自己評価結果を公開しているか	3.50	3.62

①課題

・日々の業務において、自己評価について管理ができていない。

②今後の改善方策

・意識ができるよう工夫が必要（リスト表の作成など）。

③特記事項

特になし

（10） 社会貢献・地域貢献

（数値は左が4年度、右が5年度）

評 価 項 目	4（適切） ・ 3（ほぼ適切） 2（やや不適切） ・ 1（不適切）	
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.36	3.54
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.21	3.31
地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか	3.50	3.54

①課題

・救急救命士学科として被災地等の支援を行わなくてよいのか、検討する必要がある。

・医療人を目指す両学科であるが、ボランティア活動に参加をする機会が少ない。

②今後の改善方策

・ボランティアや災害支援活動などに積極的に参加をして、社会貢献・地域貢献を行い、学生の志を高める。

③特記事項

特になし